

利稻十二萬束

定納官租穀 不注

雜填納額三千六百九十束 略○下

〔真本新撰字鏡〕米二 粃如救反雜 粃飯曰粃 粃古二上 粃文上

〔倭名類聚抄〕稻十七 穀周禮注云五穀音谷和名毛

〔類聚名義抄〕米七 粃正モミ 〔同〕九 穀音モミ

〔伊呂波字類抄〕飲食 穀モミ 粃同亦

〔和爾雅〕米六 穀並粟我

〔朱子談綺〕米下 穀 稻子モミ

〔九章算術二〕粟米以御交

粟米之法 略○註 粟率五十 略○中 稻六十

〔九章算術音義〕粟米上相玉切下莫禮切粟者禾之米之未舂米者穀實之

〔日本釋名〕米下 穀 粟モミ もゆる實也、もゆるはおひ出るを云、もみをまけばもえ出づ、からを去たる米

をまきては生せず、

〔東雅〕穀十三 穀 粃モミ 倭名鈔に穀はモミ、日本紀私記に讀てタナツモノといふと註せり、其義は並

に不詳モミの如きは、五穀といひ、六穀といひ、八穀九穀など、其萌芽を發すべき實をいふ也、(中略)穀の字

種みな呼て穀といふべければ、日本紀には、其字讀てタナツモノとはいひ、けり、亦讀てモミといふが如きは、むねと稲實をいふ事にやあるらん、我國の俗に、粃の字創造りて、モミとよむ事、日向

國風土記に、其字如くは見えたり、

〔倭訓栞〕前編三十三 もみ 略○中 倭名抄に穀をよめり、最實の義もはほめていへり、粟もよむべし、

賦役令義解に、粃字を用う、字書に出たれど、其義なし、或は稻子をよめり、又孚穀をもいふ、